

## パブリックコメントの概要及びコメントに対する日本アクチュアリー会の考え方

コメントの該当箇所	コメント	コメントに対する考え方
生保標準生命表 2007 使用の時期  [個人]	生保標準生命表 1996 作成以来 10 年を経過しており、その後の（一部年齢層を除く）死亡率の低下傾向、経営環境を考慮すると生命表改訂と第三分野用標準生命表の作成は当然のことと思慮するが、平成 17 年簡易生命表によるとこれまで延び続けていた平均余命が減少に転じた。これが一過性のものなのか、将来的に継続する傾向かが判明していないが、将来的・長期的に使用する生保標準生命表 2007 年への影響等を検証した上で、使用すべきことも必要と考える。	平成 17 年簡易生命表では男女とも平均余命が減少していますが、これは主としてインフルエンザの流行や自殺の増加が原因であると認識しております。したがって、必ずしも減少傾向が将来的に継続するものであるとは現段階では断定できないものと考えております。 また、生保標準生命表 2007（死亡保険用）の作成においては、選択効果を排除するための截断や数学的危険論による補整等、標準責任準備金の計算基礎率として健全性を確保する対応を行っております。 したがって、死亡率の平成 16 年簡易生命表までの低下トレンドも考慮すると、平成 17 年簡易生命表における平均寿命の低下が生保標準生命表 2007（死亡保険用）へ与える影響は特にないと考えております。
第三分野用標準生命表（案）の作成概要粗死亡率の作成の備考  [個人]	「 <u>第三分野保険の加入者リスク特性としては、健康に不安のある者の集団であり、・・・</u> 」は、誤解を与える表現ではないか？ →（趣旨は理解できるが）もう少し穏やかな表現とすべきではないか （ただし、断定できる根拠等があればその限りではない）	ご意見を踏まえ、以下のとおり修正します。  現行　：健康に不安のある者の集団であり、 改定後：健康に不安のある者が相対的に多い集団と考えられ、